

## 演題15

### 第一大臼歯管理をおこなって — 隣接面う蝕 および アンケート調査結果について —

○本田直子・久保慶子・田辺恵  
岩崎仁恵・西本美恵子  
にしもと小児歯科医院・福岡市

第一大臼歯のう蝕罹患状況は永久歯の中で最も高く、その寿命は44年から50年と言われ、一生健康な自分の歯ですごすために第一大臼歯は鍵となる歯である。

演者らは、第10回日本小児歯科学会九州地方会において「第一大臼歯の管理の実際と問題点」について、管理方法とう蝕罹患状況を報告した。今回は第一大臼歯近心隣接面う蝕について罹患状況、乳歯隣接面う蝕との関連性、セルフケア（ブラッシング、フロッシング）の関係について発表する。

調査対象は乳歯列期から来院し第一大臼歯の管理終了後1年以上を経過した279名、歯牙1116本である。初診時の平均年齢は3歳3カ月def<sub>t</sub>は9.8であり、現在平均年齢は10歳6カ月、年齢が12歳を経過した75名の12歳でのDMFTは1.7である。平均来院期間は7年3カ月である。第一大臼歯の観察は萌出後1年から10年まで行ない、平均観察期間は4年2カ月である。萌出後管理を開始し終了までの平均管理期間は1年2カ月である。

また、第一大臼歯の管理を充実させるために管理内容、口腔状態、セルフケア等について、来院した小児と保護者にアンケート調査を行ったのでその結果と考察もあわせて発表する。

## 演題16

take-home bleaching による歯牙漂白効果  
(第1報)

○細矢由美子、富永礼子、後藤讓治

長大・歯・小児歯

目的：take-home bleaching 法は、比較的新しい歯牙漂白法である。本法は、患者が自ら歯牙漂白を行えるという利点を有する一方、その歯牙漂白効果についてはいまだ不明な点が多い。今回我々は、テトラサイクリンにより歯牙着色をきたしたと思われる21歳女性に本法を用いる機会を得たので報告する。

材料並びに方法：材料は、Ultradent社製 Soft-Tray®シートにより作製したbleaching trayと同社製bleaching 剤 Opalescence®を用いた。Opalescence bleaching gel は、口腔内の消毒剤として用いられてきた10%過酸化尿素を含んでいる。今回は、4+4を被験歯とし、bleaching 開始後3カ月間は、唇面のみにbleaching gel を応用し、3カ月以降は、唇面と舌面の両者にbleaching を行った。使用時間は、1日1回6時間とし、ブラッシングはF含有歯磨剤を用いて行った。

視診、カラー写真撮影並びに色差計による視色を行い、歯牙漂白効果を観察した。色差計とライトガイドは、村上色彩技術研究所製ライトガイド方式色差計CD-270型に受光部先端が2mmφの改良型ライトガイドを接続したもの（CD-270改良型）を用いた。CD-270改良型の照明は、標準C光源、照明受光の幾何光学的条件は、円周照射垂直受光である。色の表示には、1976 L\*a\*b\*表色系を用いた。

結果及び考察：1)、視診による漂白効果は、術後1週目は効果なしであったが、1カ月後より効果がみられた。2)、着色部に対する漂白効果は、切歯部で特に高く、切歯部における術前に対する $\Delta E^*ab$ は、1カ月後が1.36~5.95、3カ月後は4.52~7.38であった。3)、臨床的不快症状として、3カ月目に咬合時の軽度違和感を訴えた。4)、漂白効果は、着色の強い歯頸部付近と軽度着色部である切歯部において認められた。非着色部に対するbleaching 剤の影響も含め、長期間に亘るbleaching 剤の使用が歯牙硬組織に及ぼす影響について検討が必要である。